

熊本大学広報誌

熊大通信

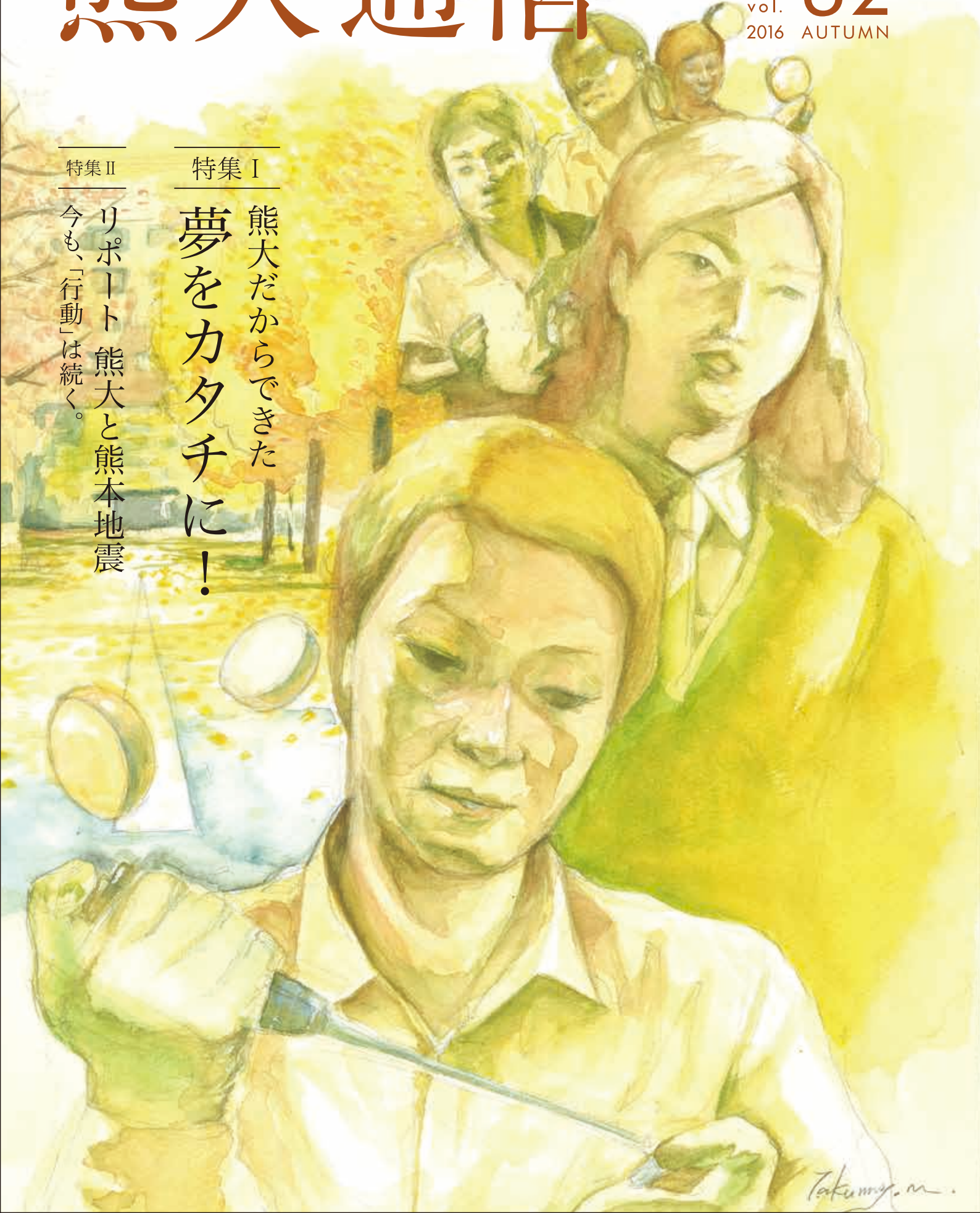
vol. 62
2016 AUTUMN

特集Ⅱ

リポート 熊大と熊本地震
今も、「行動」は続く。

特集Ⅰ

熊大だからできた
夢をカタチに！



Takumiya.m.

熊大通信

vol. 62
2016 AUTUMN



CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 熊大だからできた
夢をカタチに！
- 11 研究室探訪 内戦や紛争に対する他国の「人道的介入」
複雑に絡み合う背景を明らかにする
法学部 阿部悠貴研究室
- 13 特集Ⅱ リポート
熊大と熊本地震
今も「行動は」続く
- 15 国際交流 「くまもと」から「世界」に羽ばたく
「グローバル人材」を育成
熊本大学グローバル教育カレッジ
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

旅する熊大／

熊本大学フィルハーモニーオーケストラ部「熊大フィル」

総勢約90名。子どもたちに生の音楽を届け音楽の楽しさを知ってもらいたい、という目的で、毎年夏から秋にかけて熊本県内の小・中学校約10校で演奏している。それぞれの楽器を子どもたちが興味を持つよう紹介したあと、「くまもとサプライズ」や「さんぽ」など小学生に馴染みの曲を演奏。「威風堂々」のような教科書の教材となっているクラシック曲も体育館に響きわたり、子どもたちの顔にも笑顔が溢れる。

熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会
大日方信春／委員長 法学部
大野 龍浩／文学部
松永 拓己／教育学部
岡本 洋一／大学院法曹養成研究科
光永 正治／大学院先端科学研究部
緒方 公一／大学院先端科学研究部
日浦 瑞枝／大学院生命科学研究部
首藤 剛／大学院生命科学研究部
田中 尚人／政策創造研究教育センター
後藤 正三／マーケティング推進部広報戦略室

【制作】 株式会社 表紙／【原画】松永 拓己／教育学部 准教授
特集Ⅰで紹介をした、研究者や学生、色づいた銀杏並木の奥には、工学部百年記念館が見える。

特集 I

熊大だからできた

夢をカタチに！

生命科学、古生物学、薬学、公共政策学：

さまざまな分野で「だれも見ることがないもの」を見る、

「だれも成し遂げたことのないこと」を成す、

それは研究者にとっても学生にとっても、大いなる「夢」なのです。

熊本大学には、夢を、夢のまままで終わらせず、

カタチにしている先駆者たちがいます。

夢を実現する
研究環境と
サポートが充実

熊本大学では、学生たちのベンチャー起業を支援したり、コンベンションにより学生のアイデアを発表するチャンスをつくるなど、「夢をカタチにするサポートを行っています。」

例えば、熊本大学イノベーション推進機構では「学生」の独創的なアイデアに基づいた新しいベンチャーを起業するための人材育成「学生ベンチャー・夢プロジェクト」を行っています。新規ビジネス構築プロジェクト、技術のベンチャー化を目指した実用化研究プロジェクトなど、学生ならではのアイデアに富むプロジェクトを募集。採択されたプロジェクトにはビジネスプランのアイデアとステージに応じて5〜50万円程度の資金提供、各種セミナーへの参加、学生ベンチャー国際交流等、学生の「夢」を実現するための支援を行っています。

また、政策創造研究教育センターが中心となり政策提言を募集する公共政策コンペも実施しています。対象は学生だけでなく、公務員やビジネスパーソンなどの若手社会人。優秀作品は自治体などの協力を得て、実現に取り組んでいます。地域全体に向けて若いアイデアを応援しているのです。

公共政策コンペ

検索

<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/seisakusozo/compe/>

夢プロジェクト

検索

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/organizations/kico/yumepuro>

「いつも身近にヒーローがいた」
憧れの存在を追い続け、腎臓研究の道へ！

沿岸域環境科学
教育研究センター
たなか げんご
田中源吾 特任准教授

1974年、愛媛県宇和島市生まれ。2002年、静岡大学でカイミジンコの眼の機能形態をテーマとして学位(理学)を取得。その後、金沢大学、京都大学、レスター大学、群馬県立自然史博物館、海洋研究開発機構等の研究員を経て、2014年より現職。



発生医学研究所
腎臓発生分野
たにがわ しょうへい
谷川俊祐 助教

2002年鹿児島大学農学部生物資源化学科卒業。2008年鹿児島大学連合農学研究科にて博士号を取得(農学)。2009年よりアメリカ国立衛生研究所(NIH)にて研究員、2011年より日本学術振興会海外特別研究員として勤務後、2013年HIGOプログラム特任助教として熊本大学に着任、2016年4月より現職。

古代の生物は、どんな色を見ていた？
だれも見なかったことのない風景を求めて。

大学院薬学教育部
博士後期課程 3年
ひろつ たつり
弘津辰徳さん
福岡県立修猷館高等学校出身、
熊本大学薬学部 創薬・生命薬科学科卒業



起業の夢。
人との出会いが後押ししてくれた。

大学院薬学教育部 博士課程 1年
いまふく ただし
今福匡司さん
熊本県立済々黉高等学校出身、
熊本大学薬学部 薬学科卒業



薬学部薬学科 5年
とみなが ゆな
富永結菜さん
九州学院高等学校出身



医療にかかわる人間として、
学生にも社会貢献は可能！

大学院社会文化科学研究科
博士前期課程 1年
いとう みさき
伊藤実咲さん
福岡県立嘉穂高等学校出身、
熊本大学法学部法学科卒業



法学部法学科 4年
たちぞの たかやす
立蘭隆康さん
熊本県立済々黉高等学校出身



法学部法学科 3年
こみや ゆい
小宮唯さん
明光学園高等学校出身

地域課題を解決する学生のアイデア。



発生研は、システム化されていて効率のよい素晴らしい研究環境と谷川助教は語る

**農学部出身の異色の存在
でも、可能性は誰にでもある**

そんな谷川助教は、医学でも薬学でもなく、実は鹿児島大学の農学部出身。「野菜や果物には抗ガン作用がある成分が含まれていて、それをガン細胞に与え、食品成分によるがん予防の研究をしていたので、細胞を扱うという点では今も同じです。がん細胞も、もとをたどれば、受精卵から発生したものです。なぜ正常な細胞からがんになるのかを解明するにはまず、体が受精卵からどのようにして正しく出来上がるかを知ら



発生医学研究所 腎臓発生分野
谷川俊祐 助教

日々発展を遂げる発生・再生医学。しかし、血液のろ過など複雑な機能を持つ腎臓は、再生が困難とされています。そんな腎臓発生の仕組みを解明し、再生を目指し取り組み続けるのが、熊本大学発生医学研究所(以下、発生研)の腎臓再生分野。発見を一つひとつ積み重ね続ける研究室で、2016年4月、新たな一歩が刻まれました。大きな役割を果たしたのが、谷川俊祐助教です。

「いつも身近にヒーローがいた」 憧れの存在を追い続け、腎臓研究の道へ！

腎臓のもととなる細胞を 人為的に増やすことに成功

臓器を再生するためには、ものすごい数の「もととなる細胞」が必要です。腎臓のもととなる細胞も、取ることはできません。維持し増やすことは困難でした。それを人為的に増やすことに成功したのが谷川助教です。「料理で塩や砂糖の微妙な塩梅が味を決めるように、細胞の培養にも、必要な因子などの濃度の塩梅があるんです。これまで発表されている論文に、たとえば、大きく1とあれば、みなそうします。そこをあえて、僕は低い濃度から始めた。すると、予想外の低い濃度に細胞の「最適」がありました。マウスでは、数百倍に増やすことに成功。同じ研究室の太口敦博助教が、ヒトiPS細胞から腎臓のもととなるネフロン前駆細胞を誘導することに成功していることに触れ、「今後は、ヒトiPS細胞からつくったネフロン前駆細胞をもっと効率的に増やすこと。そして、太口助教の方法で先天的腎臓疾患を持った患者さん由来のネフロン前駆細胞をつくり僕が増やすことで、何万種類もの薬剤を試し、どれが効くのかを調べることに役立てられ、研究成果が少しでも社会に貢献できれば嬉しいです。」

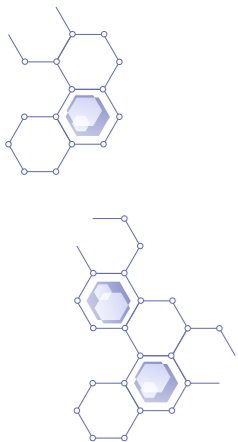


実験室での様子

ないと分からない。その疑問から発生学の研究に進みたいと思うようになりました。当時から、熊本大学の発生研は光る存在だったと谷川助教。腎臓発生の研究の道に入ったのは、院修了後アメリカ国立衛生研究所(NIH)に留学し、小児腎臓がんの研究に取り組んだ時だった。「このがんが発生するのは赤ちゃんの腎臓がお腹の中で出来上がる時。腎臓発生を解くことが重要でした。日本の腎臓発生と再生の研究者と言えば熊本大学発生医学研究所の西中村隆一教授。いつかは西中村教授のようになりたいと努力を重ねました。」その思いは数年後に大きく前進。アメリカでの研究が成果となったときでした。4年の留学を終え、谷川助教は熊本大学に着任しました。

「たこえは野球をやっているなら、活躍しているチームに入りたいですよね。西中村研究室は、そんな研究のクオリティを持ちながら社会貢献も実践しています。西中村教授の背中を見ながら、こういうことができるようにならないと、と日々感じています」。鹿児島大学時代の教授やNIH時代の上司も含め、「僕には常に、こんな人になりたいと思うヒーローが近くにいました。身近に自分のヒーローを探し出し、その姿を追い求め努力することが夢実現への近道だと思っています。」

「こういう研究をしたいなら医学部、と思うかもしれませんが、僕のように農学部出身でも可能性はあります。早いうちで自分の能力を決めつけることで可能性を逃さないでほしいです」。医・薬学以外で学ぶ学生たちや地方大学出身者の希望の存在になりたいと話す谷川助教。これからも夢を追い続けます。



科学はチームプレー 愛される人間性も大きな力

研究において、「常識ならこれくらい」という範囲から外れる部分を試そうとすると、ものすごく条件が増えるので大変です。しかし、それを試して、ほかの人が見つけられない真理をつかんでくることが谷川さんの長所。また、周りに気配りができる心の細やかさも持っている人です。熊本地震ではラボも大変なことになったのですが、その時も復旧作業だけでなく全員の食糧の買い出しなど、一生懸命やってくれました。誰からも愛される彼の人間性はこれからの研究生活にも活かされると思います。サイエンスはチームでやるもので、一人で大発見なんて簡単にはできません。そのきっかけを掴んだときに周囲のサポートを得られるかは大きいからです。

さらに言うと、彼はいつも「こんないい環境で研究できるなんて、自分の環境に感謝しています。うまく行かない時に環境のせいにして愚痴っていても成長はありません。今置かれている環境は、それまでの自分の成果の結果、それを受け入れて、その環境でベストを尽くし次のステージに進んでいくこと、それが「かっこいい」と私は思います。



発生医学研究所
腎臓発生分野
にしなみ りゅういち
西中村隆一 教授

古代の生物は、どんな色を見ていた？ だれも見なかったことのない風景を求めて。

2014年、田中源吾特任准教授は、米国で見つかった約3億年前の魚類の化石に眼の組織が残っていることを発見。当時の魚類が色のある世界を見ていたことを突き止め、英科学雑誌「ネイチャー・コミュニケーションズ」で発表され注目を集めました。人類が登場するずっと前に生きていた生物が、どんな世界を見ていたのかを知りたいと、田中特任准教授は夢を追い続けます。

始まりは、偶然手にした貝の化石

愛媛県宇和島。海に囲まれて育った「悪ガキ」の田中少年はある日、遊ぶために手に取った石に、貝の形を見



沿岸域環境科学教育研究センター
田中源吾 特任准教授

つけます。興味を覚え、投げずにポケットに入れたその石は、9千万年前の貝の化石。教えてくれたのは、化石に詳しくった小学校の先生でした。以来、化石に魅了されて約30年。「今、目の前に広がる海に、何億年も前はアンモナイトや三葉虫がいつは泳いでいた。その光景を想像するとワクワクします」。

2014年の発見後、田中特任准教授は中国で見つかった羽毛恐竜の化石にも網膜の組織を発見。眼に残る情報からは、その生物がどんな色を見て、どんな明るさの中で暮らしていたかなどがわかると話します。「羽毛恐竜の眼の研究から、当時の羽毛恐竜や鳥は、人間には見えない紫外線も見えていた可能性があることもわかりました。よく、恐竜時代の想像図が描かれますが、恐竜たちが見ていた世界を描くなら違った色になるはず」。

古代と現代の干潟を比較できる、 日本でも稀な環境

田中特任准教授の研究拠点は「合津マリンステーション（熊本県上天草市）」。この魅力は干潟が近いことです。「干潟には、いろいろな光環境に住む生物が多い。そして大陸とつながっていたころの古代の干潟の地層があるのは、日本で天草と三陸だけで



上天草市姫戸で発掘されたアンモナイト



カイミジンコの眼の形態や進化や光環境への適応を研究

す」。天草は古代の干潟と現在の干潟を比較できる貴重な環境にあり、この比較は、実に多くのことを教えてくれます。天草はまた、アンモナイト化石が北海道について二番目に多く出る地域でもあります。実は、よく目にするアンモナイトの絵も、貝の中の体の部分ははまだ想像の域を超えておらず、眼と同じように軟体部の化石が出ればさらに本物に近づけます。「アンモナイトの軟体部が天草で見つかれば、日本の研究者として、やった！となるでしょうね」。探究心に終わりはなく、一つ発見すると、また次の夢が生まれる。そこにこそ大きな喜びがあると、田中特任准教授の研究の日々が伝えてくれています。

※熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター合津マリンステーション。教育研究と臨海実習が行われている。

起業の夢。 人との出会いが後押ししてくれた。



大学院薬学教育部博士後期課程3年
弘津辰徳さん

学生でありながら起業し、社長という肩書も持つ。そんな離れ業を実現したのは、大学院薬学教育部博士後期課程3年の弘津辰徳さんです。弘津さんが立ち上げた株式会社CyDing(サイディング)によるプロジェクト「シクロデキストリンを基盤分子とした医薬品および機能性食品の創製」は、平成28年7月に開催された「熊本テックプログラミングランプリ」において、最優秀賞を受賞しました。

チャンスは思わぬところから

大学に進学した頃から「起業」という夢を抱いていたという弘津さん。起業のきっかけをたどると、専門以外の社会文化科学を学び、企業セミナーを経験できる熊本大学の「HIGOPプログラム」にも参加

しました。「刺激を受けたのは、HIGOPプログラムで参加した、株式会社A-cometreeの秋葉良和社長の講演。バイタリティにあふれて何をするのも楽しそう、起業したいという気持ちが高まりました」。起業のきっかけは思わぬところからやってきます。株式会社リバネスという、ベンチャーの発掘・起業支援を行っている会社の丸幸弘社長が、弘津さんが所属する有馬英俊研究室の研究内容を目にし、有馬教授を訪ねて来たことでした。「僕はよく有馬先生にも起業したいと話していましたから、すぐ声をかけてくださったんです。丸さんから軽い感じで『やってみたい？』と言われて、僕も『やります』と。なんと約4カ月で会社が立ち上がりました」。

シクロデキストリンを柱に、 最終目標は創薬

株式会社CyDingの事業の柱は、環状マルトオリゴ糖である、シクロデキストリン。これは様々な可能性を有しており、もともとの研究テーマとしても使われています。目標は、「このシクロデキストリンを活用した『創薬』です」。「大企業でも大変な創薬をベンチャーがやるのはハードルが高い」と弘津さん。大きな目標を掲げつつ、機能性食品開発や研究用試薬販

売、受託合成なども手掛けます。「シクロデキストリンと、サイゼンジンノリから抽出される、胃粘膜保護機能を持つ成分サクランを混ぜることで効果的な機能性食品を開発し販売する計画です」。

「薬学部に入ると、進路は製薬か薬剤師かで起業なんて思いもよらないかもしれませんが、でも、たとえばHIGOPプログラムのような、普段の授業とは違う体験をすると新しい可能性が見いだせると思えます」。これから薬学部進学を考える人にも、ぜひ、いろいろなことを経験してほしいと話してくれました。

※1 自然共生型産業などの創出に向けて、次世代技術と情熱をもって熊本から世界を変えようとする起業家を発掘・育成する創業支援プログラム KUMAMOTO TECH PLANTERSプログラムの一環として開催された次世代ベンチャーコンテスト。

※2 医学・薬学などを基盤とする「健康生命科学」の知識を持つ、九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて、グローバルなリーダーシップに様々な課題を解決できる人材を育成するための熊本大学のプログラム。



熊本テックランプリで最優秀賞を受賞



会議に参加し助言をしているのは、政創研の安部美和(あべみわ)特任助教(左)、コンペに参加する際は、調査の仕方や、アイデアのまとめ方などアドバイスを行った

「プロジェクト・キー・プレフト」を企画したのは、当時大学院の2年生だった新宮奈々花さん(現在は佐賀県職員)です。新宮さんの提言テーマは「安心・安全快適な自転車のまちに」。熊本大学黒髪キャンパス前の道路は、通学時間には多くの自転車が両側を走り、非常に危険な状態です。それを何とかしようと新宮さんは、自転車専用道路がなくて



大学院社会文化科学研究科博士前期課程1年 伊藤実咲さん



法学部法学科4年 立園隆康さん



法学部法学科3年 小宮唯さん



学生がデザインし公募で決定し、実際に配布されたステッカー

現在プロジェクトを率いるのが、伊藤実咲さんです。「自転車は私も毎日使っていて身近だったので参加しました」。提言をまとめるために、学生へのアンケート調査や交通量調査など、かなりの時間を使ってきました。それだけに、熊本市中央区まちづくり推進課や熊本北警察署、自転車愛好家グループと連携ができ、デザインコンペを経てステッカーが出来上がった時には「本当にやってよかったと感動しました」。

「このプロジェクトを通して、課題に取り組みどう決するかを学生のうちに考えられたことがよかった」と伊藤さん。小宮唯さんは「新宮さんを引き継いで続けてきた伊藤さんのようになりたいと思います」と、後輩としての意気込みを話してくれました。メンバーの将来の希望職種は様々ですが、このプロジェクトが座学では得られない大きな力を与えてくれたようです。

※本誌3ページ参照

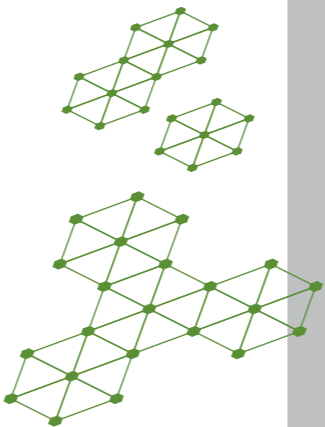
「かっこよく楽しく」マナー向上を

「熊本大学政創研公共政策コンペ」は、熊本大学政策創造研究教育センターが主催する、新しい未来を創造し社会をよりよく導くための提言を募集するもの。平成27年12月開催のコンペで市民賞を受賞したのが、「プロジェクト・キー・プレフト」です。政創研のサポートのもと企画を実現させました。

完成したステッカーに感動

も学生がルールを守る仕掛けとして、マナーアップステッカーを提案。「かっこよく、楽しく」をテーマに、年一回、ステッカーデザインを学生に公募し選ぶことで、学生主体で低コストの自転車マナー向上が実現できるといふ提言をまとめました。

地域課題を解決する学生のアイデア。



メンバーの一人、立園隆康さんは「プロジェクトに参加して、やってみたいと分らないことがあると実感しました。例えば啓発用のうちわを配るにしても、自転車の乗っている人がターゲットなのに、通りすがりに渡せない、ではどうするかと考えました。今年度で卒業する立園さんは、息の長いプロジェクトにするため、「あとに残せるもの」として、卒業までに啓発用動画をつくることを目標です。

メンバーの一人、立園隆康さんは「プロジェクトに参加して、やってみたいと分らないことがあると実感しました。例えば啓発用のうちわを配るにしても、自転車の乗っている人がターゲットなのに、通りすがりに渡せない、ではどうするかと考えました。今年度で卒業する立園さんは、息の長いプロジェクトにするため、「あとに残せるもの」として、卒業までに啓発用動画をつくることを目標です。

医療にかかわる人間として、学生にも社会貢献は可能!

九州の大学や高専の研究成果を育成、発掘することを目的とした「大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」。その第15回コンテストで平成27年12月「革新的な酸化ストレス解析法を基盤とする受託事業」が九州経済産業局長賞を受賞しました。立案したのは、熊大夢プロジェクトの支援を受けた大学院薬学教育部博士課程1年の今福匡司さんと薬学部薬学科5年の富永結菜さんです。

酸化ストレス測定で病気を予防

生活習慣や精神的なストレスが原因で、体の中で増加する酸化ストレス。酸化ストレスはタンパク質やDNAなどを酸化させ、様々な疾患の発症に影響することが知られています。酸化ストレスを健康診断で定量的に測定できれば、病気の発症前に診断できるのではと気づいたのが今福さんです。コストがかかり操作も大

薬学部薬学科5年 富永結菜さん

大学院薬学教育部 博士課程1年 今福匡司さん

研究費やビジネスプラン構築の支援を受けて

酸化ストレス測定を一般化するために、ヒトの測定データが数多く必要です。「夢プロジェクト」では、データ収集の研究費支援やビジネスプラン構築のサポートをしてもらい、それが受賞につながったと今福さんが振り返ります。「受賞を機にさまざまなおところから声をかけていた



大学発ベンチャービジネスプランコンテスト 九州経済産業局長賞を受賞

き、「酸化ストレス測定の一一般化」という夢に近づいたと思います。今福さんを手伝い、ともに受賞した富永結菜さんは「今福さんと研究できたことで、どんなことでも一人ではできないし、誰かと一緒に取り組める環境に身を置くことで見つかる目標があるなとわかりました」と話します。今福さんは、違う学部ではどんなことが進んでいるのかを知るために学部を超えたとながらも大切だとベンチャー企業を立ち上げた製剤設計学分野の弘津辰徳さんらと「Kumamoto Innovation Lab」も立ち上げました。「大学でいろいろな経験を重ねて、自分も社会貢献ができる人間になりたいと思うようになりました。様々なことに挑戦することで、自分は何ができる人間なのか見えてくると思います」。

※1本誌3ページ参照
※2 Kumamoto Innovation Lab 学生が集まって熊本を盛り上げていくことを目指す組織。普段交流の少ない他キャンパスの学生を集めて分野を超えた交流の場を提供し、新しいアイデアや企画の発信・情報交換が可能なコミュニティを創る活動をしている。

研究室探訪



内戦や紛争に対する他国の「人道的介入」 複雑に絡み合う背景を明らかにする

NATOの変容を通じた 介入に伴う「シレンマ」がテーマ

内戦や国同士の争いが起こり、悲惨な映像を見て「何とかしなければいけない」と思うのは当然です。しかし当事者以外の国や国際機関による「人道的介入」と呼ばれるものは、結局は軍事力を使用するもの。自国の兵士などの命が奪われることがあればその「介入」に対する批判が起こります。「人を救うための行動が批判の対象となる。その『シレンマ』が私の研究テーマです」と阿部悠貴准教授は話します。

その中で、特に阿部准教授が研究テーマとするのが、アメリカ合衆国とカナダ、そしてヨーロッパ諸国で構成されたNATO（北大西洋条約機構）の変容です。NATOは、もとは冷戦時代に旧ソビエト連邦に対抗する組織としてつくられた軍事同盟ですが、冷戦が終わりソビエト連邦が消滅しても存続しています。冷戦時代には行使されなかったNATOの軍事力が初めて使われたのは、1999年に勃発したボスニア・ヘルツェゴビナ内戦でしたが、結局それも批判されました。「内戦が終わると、できるだけ戦争に発展しないよう、早期に解決できるメカニズム構築が考えられ始めました。そこに影響したのがNATOだと考えています」。また、アメリカやイギリス、フランスが、自分たちが危険にさらされるわけではないのに他国の紛争に介入するのはなぜなのか、その理由を探っているという阿部准教授。「大国が他国のことを決めるのは危険なことです。軍事力を使って解決できるほど、内戦や紛争は簡単な問題ではありません。そこには複雑な要因が絡み合っているということ、を明らかにしたいと考えています。」

も のごことは多面的に考えよう。 意見を「疑ってみる」ことも大切

そんな阿部研究室には、国際問題や国際政治に興味を持つ学生たちが所属しています。ゼミでは、阿部准教授が与えるテーマでディベートを行ったり、映画を利用して国際問題を考えることも。また阿部准教授は学生たちに、政治にかかわる小説なども積極的に読むよう勧めています。もちろん、阿部准教授自身の研究も、さまざまな文献をあたったり、膨大な量の新聞記事を読み、ある紛争や国際問題に對してどのような議論がなされているかを調べることから始まり、政治家への取材なども行います。「議論は一方的であってはならず、多面的な考察が必要です。たとえば社会規範に反した自分勝手なことをする国を軍事力で制圧したら解決するかという、そんな単純な問題ではありません。国際問題に興味がある人は、新聞やテレビで言われていることをそのまま受け取るのではなく、書かれていること、言われていることを疑ってみるといふ姿勢を大切にしてほしいと思います。」

密着！阿部研究室

日々の実験やミーティングのほか、学生生活の思い出づくりも満載の研究室の毎日をご紹介します。



2016.9
夏休み明け1回目のゼミ。政治が関連する小説の読書が休み中の課題として出たため、それぞれ読書をした小説についてプレゼン。

阿部准教授お勧めの図書
小説だと、読みやすく興味を持ち考える入り口になるため、学生にも積極的に薦めている。

左上／「三酔人経緯問答」 中江兆民
左下／「1984」 ジョージ・オーウェル
右／「動物農場」 ジョージ・オーウェル

lab's data

- 【阿部研究室テーマ】
- 研究テーマ
 - ・ 国際紛争、内戦における人道的介入
 - 修論・卒論テーマ
 - ・ ドイツの移民政策
 - ・ ヨーロッパ移民と「イスラム国」への参加
 - ・ アメリカのホームレス問題
 - メンバー
 - 阿部悠貴 准教授、
 - 法学科4年8人、法学科3年7人



Interview



せとやま あきこ
法学科4年 瀬戸山 旺子さん(左)
法学部に進学したのは公務員合格の実績があったからです。ドイツに留学し、海外のことに興味を持ち国際政治について学びたいと思って阿部研究室に入りました。ドイツに留学したのは2014年で、ちょうどシリア難民が問題化し始めた時でした。これから卒論の準備に入るので、ドイツの外來移民政策について調べ、ドイツと日本の政策の比較ができればと考えています。

せぐち すぐる
法学科4年 瀬口 傑さん(中央)
幼い時に見たアメリカ同時多発テロの映像が衝撃的で、いまだによく覚えています。なぜテロ組織とほかの国が戦争になるのか、ということに興味を持ち、それを学べるのが阿部先生の研究室でした。今はイスラム国と移民政策の関係について調べることをテーマにしています。

いけだ しゅんぺい
法学科4年 池田 俊平さん(右)
現在の研究テーマはアメリカの政治とホームレスの関連性について。アメリカのカリフォルニアに留学していた時、ホームレスの人をたくさん見かけたことがきっかけです。アメリカの政治との関連性を見ていくことで、国際政治を考えるきっかけにしたいと思っています。

法学部に進んだのは公務員になることを考えたことも理由です。2年生で阿部先生の授業を受けて国際政治に興味を持ち、留学も経験したことで国際法や国家間の問題に関する知識を活かせる一般企業への就職を決めました。阿部先生の研究室で国際問題や国際政治を考えることを通し、「多角的に物事を見る力」を養うことは、将来どんな仕事にも役立つと思います。

阿部准教授の論文が掲載された
国際政治に係わる専門誌
『Contemporary Security Policy』
発行／Routledge



益城町のサテライトラボ始動、今後の復興計画に活かすヒアリングも

震災復興デザインプロジェクト

さらにまちづくりの拠点として、「サテライトラボ」の設置を進め、平成28年10月秋津川河川公園に拠点となる建物 completes します。ラボの役割は、地域住民と協働で住民の思いを反映した復興を進めること。行



益城町の仮設住宅での聞き取り調査の様子

熊本大学では、特に被害が集中した益城町において地域と連携し、熊本大学の専門家が住民と対話しながら地域の将来像を描く支援を行っています。まず進められているのが、全世帯に対するヒアリング調査です。教員や学生らが各家庭を訪ね、現在困っていること、またこれからどうしていきたいかなど細かく聞き出す作業が行われています。

益城町サテライトラボに関する問い合わせ
大学院先端科学研究部 社会基盤計画分野
かきもと 竜治 教授
E-mail kakimoto@kumamoto-u.ac.jp



建設中の益城町サテライトラボ

問題を、勝ち負けでなく話し合いで解決するADRの普及と対話支援

交渉紛争解決学の立場から

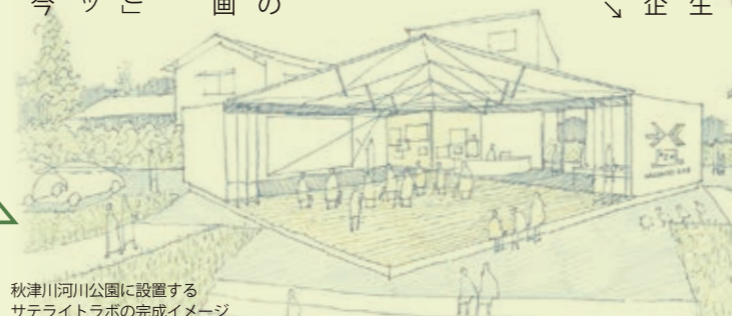
熊本地震のような大災害では、ストレスや住宅の損壊などによる住民同士の間で起こりやすくなる問題が起ります。大学文化科学研究科および法学部では、紛争解決の専門家である教員らが震災ADR (Alternative Dispute Resolution) の普及啓発活動を行っています。もめごとを当事者同士で解決できない時は法律相談や裁判が考えられますが、法律相談では弁護士が一方だけの意見を聞いてアドバイスするしかなかったり、裁判でも結果が「勝ち負け」で決まるだけで住民同士の関係性は険悪のまま終わってしまったりします。それに対して、ADRでは、弁護士など第三者が間に入り、両者の意見を聞いて一緒に納得のいく解決策を考えることをします。特に震災のようにみんなが困っている時は、お互いが納得をし、

熊本地震 震災 ADR に関する問い合わせ
大学院社会文化科学研究科交渉紛争解決学領域
いしはら 明子 准教授
E-mail aishi@kumamoto-u.ac.jp
あるいは
法学部研究事務室
E-mail hougaku@kumamoto-u.ac.jp



シンポジウムの様子

これからも一緒に生きていける関係性を壊さないようにして、ともに復興に取り組んでいけるような解決策を見出すことが大切です。熊本大学ではシンポジウム等で震災ADR啓発に取り組みほか、紛争解決学分野として、身近な紛争解決や復興のまちづくりのための対話支援にも積極的に取り組んでいきます。



秋津川河川公園に設置するサテライトラボの完成イメージ

熊本の産業復興へ向け、大学の「知」を総動員

産業復興プロジェクト

熊本大学では、これまでCOC^{※1}、COC+^{※2}事業のもと、地域の課題を解決し地元根差す人材の育成や、情報提供、技術連携など、熊本県の産業復興を目指す取り組みを続けてきました。熊本地震を機に、「オールジャパン」の協力を得て、以下3つの取り組みのように熊本の産業復興をあらゆる面から支えます。

資金の半分は返済不要の寄付金扱い ～セキユリテ熊本地震被災地応援ファンド

熊本地震で被災した中小企業の復旧・復興応援ファンドです。運営会社のミュージックセキユリティーズ(株)

と熊本県、熊本大学、熊本商工会議所連合会が協定を結び、全国の投資家と熊本県内の被災事業者を仲介。投資家からの資金のうち、半分は返済の必要がない寄付金扱いで、被災企業の再建に活用しやすい仕組みです。

国立研究開発法人産業技術総合研究所と協定締結

熊本地震からの早期復興に向け、産総研と熊本大学は技術的協力、人災育成等に係る連携・教育に関する基本協定を平成28年9月に締結。地震被害によって研究の中断を余儀なくされた熊大大学院生の受け入れのほか、地元企業に対しては、産総研



国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学との協定調印式の様子



国立研究開発法人産業技術総合研究所との協定調印式の様子



熊本地震被災地応援ファンドに係る連携協定調印式の様子

と熊大のコーディネートによる技術相談を行います。内容に応じた技術コンサルティングや共同研究、外部資金を活用した産学官連携支援を行います。

経済交流と連携を通じた復興を Matching HUB

Matching HUBは、国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学が、産学官連携を通じた北陸地域における新産業の創出と人材育成を目的に行っているもの。熊本大学は平成28年7月に北陸先端大と協定を締結。今後、北陸の企業と熊本の企業の経済交流や産学官連携の支援を行う予定です。

3つの取り組みに関するお問い合わせ
熊本大学くまもと地方産業創生センター
COC+推進コーディネーター(雇用担当)
高口 義幸 特任教授
E-mail koguchi@kumamoto-u.ac.jp

Matching HUB イベント予定
① 平成28年11月1日
Matching HUB KANAZAWA
ANAクラウンプラザホテル
金沢および周辺施設にて開催。
熊本県より11企業・団体が参加します。
② 平成29年2月28日
Matching HUB熊本
熊本大学工学部百周年記念館にて開催予定。

※1 COCとは、センター・オブ・コミュニティの略称で、主に地域課題を解決できる人材の育成に取り組んでいる。熊本大学は、平成26年度に文部科学省「地(知)の拠点事業(大学COC事業)」に採択された。
※2 COC+では、熊本の産業創生と雇用創出に資することができる人材の育成に取り組んでいる。熊本大学は、平成27年度に県内の8つの大学・高専が連携して取り組む「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択された。

リポート 熊大と熊本地震

今も、「行動」は続く。二度の大地震に見舞われた熊本は復興に向けて動き出しました。熊本大学では、蓄積された知見や地震直後の調査・分析などさまざまな分野で地域を支援しています。その取り組みの一部を報告します。

「くまもと」から「世界」に羽ばたく 「グローバル人材」を育成

熊本大学グローバル教育カレッジ

熊本大学は、「地域の問題をグローバルな視点で考えることのできる人材」を輩出することを目標に掲げ、様々な改革を行っています。平成26年度に設置されたグローバル教育カレッジでは、グローバル教育、外国人留学生への支援、そして地域社会のグローバル化を推進しています。平成28年4月には、新しいカレッジ棟もオープンし、日々活気に溢れています。今号では、その活動の一部を紹介します。



グローバル教育カレッジ棟の外観



カレッジ棟のラウンジは、開放されており、休み時には交流の輪が広がっています

熊大生なら誰でも参加できる 英語による科目を提供

今年度から、新しいカレッジ棟で英語による教養教育科目を開講しています。これまでに全学部から受講があり、留学生とともに学修しています。

履修している学生からは、「英語のリスニング能力が向上した」、「英語によるプレゼンテーションスキルを磨くことがで

きた」、「留学生の積極性に刺激を受け、自分の意見を英語で自由に言い合えるようになった」等の感想が寄せられました。



英語による授業の実施風景

国際交流



グローバル教育カレッジでは、熊本にいなから海外留学に近い環境を経験出来ます。

授業外活動も充実 「イングリッシュ・トークモン」

平日のランチタイム及び5限の毎日2回、グローバル教育カレッジ棟の教室では、英語でのフリートークが始まります。これは、english-TALKmon(イングリッシュ・トークモン)と名付けられたカレッジが主催する授業外活動です。日本人学生も留学生も時には職員も一緒になって、気軽にカレッジ教員と英語で対話することで、英語によるコミュニケーション力の向上を図っています。

高校生に熊本大学の グローバル教育を紹介

熊本大学のグローバル人材育成の取り組みを高校生に知ってもらうため、夏休み期間中の8月6日、「Open College Day」が開催されました。



英語による模擬授業は大盛況でした

プログラムは、英語による模擬授業や熊大生による留学成果発表会などで、約150名の参加がありました。模擬授業では、ペアになって設定したテーマに就いて話したり聞き取ったりという活動もあり、高

校生たちは、真剣に取り組み、積極的に発言していました。

参加者から提出してもらったアンケートでは、「留学のイメージがつかめた。熊本で学びたいという気持ちが強くなった」などの感想が寄せられ、高校生たちが、海外留学や熊本大学での授業など「未来の姿」を思い描ききっかけになったようです。



ラウンジで行われたグローバルカフェでは先生たちが参加した高校生のためにかき氷を手作り

専門性を持った国際人、 真に求められる人材育成

グローバル化が進む現代には、多様な価値感を理解できる豊かな教養と国際感覚が必要です。同時に、確かな専門性も求められています。熊本大学では、教養と専門科目の両方をしっかり学び、国際社会で活躍できる人材の育成を目指しています。

さらに、真のグローバルリーダー育成のため、平成29年度から文学部・法学部・理学部・工学部に「グローバルリーダーコース」が新設されます。このコースでは、グローバル教育カレッジが提供する英語による授業科目を含め、4学部の連携・協力のものと、独自の教育プログラムを履修します。

また、カレッジ棟にはラウンジが設けられており、留学生と日本人学生、中高生を含む地域の方々が自由に交流できるようにしています。加えて、留学に必要なとされる英語の資格試験講座も開設されています。

世界に求められる人材となるために、だれもが気軽に活用できるグローバル教育カレッジは、熊大生にとって、世界への第一歩になるはずで



副学長(国際交流担当) 高島和希
たかしまかずき
グローバル教育カレッジ長

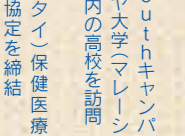
※グローバル教育カレッジの情報はHPをご覧ください。 [グローバル教育カレッジ](#) [検索](#)

国際交流レポート (3月～8月)

3/3 プラウイジャヤ大学(インドネシア)と大学間交流協定を締結
本学工学部・理学部・大学院自然科学研究科が2011年に締結した部局間学術交流協定を大学全体に交流拡大するために、モハト・ピスリ学長来学のもと、本学にて調印式を行いました。



3/9 熊大グローバルYouthキャンパス事業としてマラヤ大学(マレーシア)留学生が熊本県内の高校を訪問



3/28 ナレスアン大学(タイ)保健医療学部と部局間交流協定を締結
本学大学院保健学教育部及び大学院生命科学研究所とナレスアン大学保健医療学部との部局間学術交流協定調印式を保健学教育部にて行いました。式後、保健学系国際シンポジウムを開催しました。



4/6 モンタナ州立大学(米国)訪問団が原田信志学長を表敬訪問

4/8 本学全学部生を対象とした、「英語による教養教育科目「グローバル科目」を15科目開講

5/31 グローバル教育カレッジにおいて平成28年熊本地震外国人被災者のための生活相談会を開催

6/16 DAADドイツ留学フェアを開催

6/20 アルバータ大学(カナダ)生涯教育学部長らが本学を訪問

6/25 7/9 熊大グローバルYouthキャンパス事業として高校生連と台湾からの留学生の交流会を開催

7/2 熊本留学生交流推進会議主催ウエルカムパーティーをグローバル教育カレッジ棟にて開催
熊本県内の大学から150人を超える留学生および日本人学生が参加し、サークルによる出し物などを通じて交流を深めました。



7/6 7/30 留学生と高校生の交流
本学留学生が熊本県内の高校を訪問し、高校生の英語による研究発表や論文についてディスカッションや指導を行いました。

7/8 カールスルーエ工科大学(ドイツ)副学長が原田学長を表敬訪問

7/9 駐日ウガンダ共和国大使が高島副学長を表敬訪問
ベティ・グレース・アケチー・オクワロ駐日ウガンダ共和国大使が本学を来訪し、高島副学長(国際交流担当)を表敬訪問し、今後の交流促進について意見を交換しました。

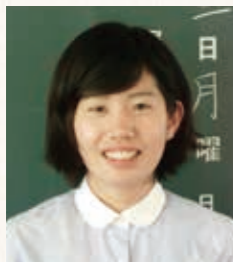
7/22 チューリッヒ大学(スイス)アジア・オリエント研究所日本語アシスタント・イネット教授による講演会を文学部とグローバル教育カレッジの共催で実施

8/6 熊大グローバルYouthキャンパス事業としてオープンカレッジデーを開催(上段を参照)



8/10 中華人民共和国駐福岡総領事が高島副学長を表敬訪問

教育学部 心身ともに大きく成長する
中学生に言葉の力を伝えたい



桂木 結花
Yuka KATSURAGI

佐賀県神崎市立千代田中学校
教諭

教育学部小学校教員養成課程
国語科
平成27年度卒

平成3年生まれ、鹿児島県鹿児島市出身。鹿児島県立甲南高等学校卒業。本が好きで大学時代は書店でアルバイト。金魚を飼い始め、癒されています。

熊大のココがイイ!
勉強する環境が整っているところ。

被災地・熊本へ
震災で人とつながる大切さやありがたさを実感。自分一人ではないと思える環境をこれから大切にしたいです。

夢を持つ子どもの手助けをしたい
教員の道へ

人を助ける仕事に憧れ、高校時代は法で人を助ける法曹関係に就きたいと思っていました。しかし、私のように夢を持つ子どもの手助けをしたいと教師を志し、教育学部に進学。勉強より本を読んでいる時間の方が長い高校生活でしたが、国語教員になった今、その時間は無駄ではなかったと感じています。

自分の世界や視野が広がった
ボランティア活動

やりたいことを自由にできた大学生活。気になったイベントやボランティアなどには自分から飛び込んで、自分の世界や視野を広げることができました。ユアフレンドという、不登校の児童、生徒の話し相手になる活動や病院の病室を回って本を貸し出す移動図書館のボランティアが印象に残っています。

部活や生徒指導にも全力
生徒と「一緒に行動」がモットー

小学校か中学校の国語を受けるのが悩みましたが、心も体も大きく成長する中学生に、国語の授業を通して言葉の力を伝えていきたいと思いました。授業だけでなく、剣道部の指導、生徒指導など慌ただしい毎日ですが、やさしい先生方や素直で明るい生徒たちに助けられています。昼休みには生徒たちとドッジボールをしたり、部活でも体を動かしたり、生徒と一緒に活動することを心がけています。

文学部 インターンシップがきっかけで
知らない世界を見たいと報道の世界へ



池田 航大
Kodai IKEDA

NHK福岡放送局

文学部総合人間学科
平成21年度卒

昭和62年生まれ、長崎県東彼杵町出身。長崎県立大村高等学校卒業。熊本大学卒業後、NHK入局。趣味は釣り、熱帯魚飼育。

熊大のココがイイ!
緑豊かで長い歴史を感じるキャンパス。

被災地・熊本へ
皆さんが将来の目標を持ち、学び、友をつかっていく前向きな姿勢こそが復興の何よりのエネルギーです。がんばってください。

夢はバンドマン。でも、
しっかり将来を描くため大学へ

小学生の時に始めたドラム演奏に熱中し、吹奏楽部に入りながらバンド活動を並行してやっていました。「技術を磨いて将来はバンドマンになりたい」と漠然と思っていた時期もありましたが、現実的じゃないな...とも考えていました。まずは大学に入って4年間の猶予の中でやりたい事、就きたい仕事を探そうと思い、熊本大学に進学しました。

サークルで音楽、アルバイトは
接客から肉体労働まで!

サークルはモダンジャズ研究会に所属して、学内外でドラマーとして演奏活動に取り組んでいました。音楽教室の講師をしながら、アルバイトは接客から肉体労働までさまざまな種類を体験しました。大学3年生の時に新聞社にインターンシップに行ったのをきっかけに報道の仕事に興味を持ち、「日々変化のある現場で、知らない世界を広く見たい」と思い、テレビ局の就職面接に臨みました。

現在は警察本部担当記者
事件を追いかける毎日

卒業後にNHKに入局しました。初任地は佐賀放送局に配属され、原発の再稼働問題から、伝統的な有田焼の職人技まで幅広く取材しました。昨年(平成27年)からは福岡放送局に配属。警察本部の担当記者として日々事件を追いかけています。

法学部 話す言葉のすべては、勉強や
熊本での経験が支えています



庭木 櫻子
Sakurako NIWAKI

NHK徳島放送局
放送部

法学部法学科
平成26年度卒

平成4年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立第一高等学校卒業。平成27年NHKにアナウンサーとして入局。趣味は拳、日本舞踊。

熊大のココがイイ!
学びたくなる雰囲気があるところ。

被災地・熊本へ
育ててもらった熊本にこれからもずっと向き合い続けたいと思います。みんなで力を合わせて乗り越えましょう。

もっと“自分の国を知るために”
法学部へ進学

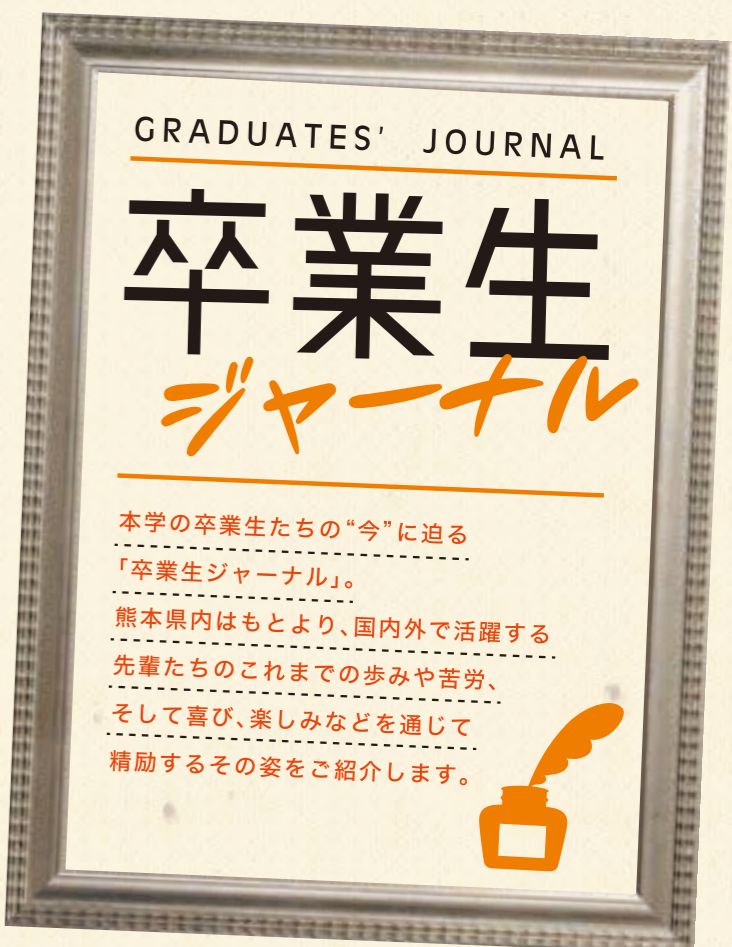
高校3年間英語コースで勉強していたので、大学で語学を専門的に学ぶ新たな分野に挑戦するかすごく迷いました。しかし、高校生活でさまざまな国の人と出会って話す中で、私は自分の国のルールや価値観についてあまり知らないのだというを感じ、法学部で学びたいと考えるようになりました。

宝くじキャンペーンガールの
活動で世界観が広がった

夏休みなど時間がある時に、小学生の英会話教室で通訳補助のボランティアをしたことが良い思い出です。4年生のときには「宝くじ 幸運の女神」というキャンペーンガールの活動で全国42都道府県を回り、視野や世界観が一気に広がったように思います。

熊本地震では中継やニュースを担当

現在は、初任地の徳島放送局でアナウンサーをしています。熊本地震では翌日から熊本に入り、現場からの中継やスタジオでのニュースを担当。現場に着いて5~10分で放送ということもあり、瞬発力が求められる仕事です。しかし、そこで話す言葉のすべては、日々勉強してきたことや大学卒業まで熊本で暮らしてきた経験が支えていると感じました。まだ2年目ですが、少しでも伝えたい思いが伝わる放送ができるようにがんばりたいです。



GRADUATES' JOURNAL

卒業生
ジャーナル

本学の卒業生たちの“今”に迫る

「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍する

先輩たちのこれまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通じて

精励するその姿をご紹介します。



工学部 いつの日か、「自分がつくった!」と
誇れる建物をつくりたい



唐沢 文茜
Fumika KARASAWA

株式会社安井建築設計事務所
大阪事務所
工学部建築学科
平成21年度卒
自然科学研究科
博士前期課程建築学専攻
平成23年度修了

昭和62年生まれ、中華人民共和国上海市出身。9歳で来日。熊本県立済々堂高等学校卒業。建築設計に興味があり意匠設計者の道へ。夢は雑誌に載る建物をつくること。

熊大のココがイイ!
個性豊かな学生と先生と環境に出会える場所です。

被災地・熊本へ
距離は離れていても、心はいつも熊本に寄り添っています。元気な姿に会える日を心待ちにしています。

「笑顔を与え、笑顔が見える仕事」
漠然とした思いが、現実に

高校生時代はなりたいたいのが特になく、ありきたりですが、人の役に立ちたいと思っていました。また、笑顔を与えられる仕事で、かつ、その笑顔が見える職業がいいと考えていました。建築設計の道に進むとはまったく想像していなかったのですが、完成した建物を囲む人々の笑顔と思うと、理想の職業にめぐり合えたのかもしれません。

遊びも含め、大学の経験すべてが
今の自分をつくってくれた

3年生までは課題に追われながらも、友だちと暇あるごとに遊びに出かけていました。街並み散策、建物見学、名物の食べ歩きなど、九州を堪能したと思います。4年生からは研究に没頭した日々を送りましたが、楽しく充実した大学生活でした。遊びも含めて、大学生活での経験すべてが今ある自分の糧になっていると思います。

おもに病院の意匠設計を担当
地域に親しまれる建物に

会社では意匠設計者として、おもに病院を担当しています。公共性の高い施設であるため、使いやすく、地域に親しまれる施設づくりを目指しています。今はまだ仕事を覚えていく段階ですが、いつかは「自分がつくった!」と誇ることができるものを手がけたいと思い、日々奮闘しています。

理学部 災害時や気象予報にかかわる
システム開発にやりがいを実感



尾崎 弘子
Hiroko OZAKI

三菱スペース・ソフトウェア(株)
関西事業部(兵庫)
第二技術部第三課

理学部地球科学科
平成18年度卒
大学院自然科学研究科理学専攻
平成20年度修了

昭和59年生まれ、宮崎県都城市出身。宮崎県立都城ヶ丘高等学校卒業。趣味は飲み歩きと、社会人になってから始めた和太鼓。

熊大のココがイイ!
阿蘇など、最高の研究対象が身近にある。

被災地・熊本へ
地球・環境科学コースでは断層や地震についても学べます。地震予測等興味があれば大学で学び社会に役立て頂けるとうれいす。

小さい頃から持っていた
宇宙への興味はずっと変わらず

小さい頃から宇宙に興味津々でした。高校生の頃もよく夜空を眺めていて、漠然と宇宙に関係する仕事がしたいと思うようになっていました。振り返ってみると、大学、仕事も宇宙や自然に関わる内容で、小さい頃から根本は変わってないなと思っています。

夢を現実につなげる
研究に取り組めた大学時代

大学ではフィールドワークが多く、阿蘇や島に行くアウトドアな生活でしたが、学部3年からは隕石の研究を始め、顕微鏡や実験機器と向き合うインドアな生活になりました。宇宙から来た隕石を調べることは非常に興味深く、小さい頃からの夢を現実につなげる研究だったと思います。天文サークルに参加し、仲間と星を見に行ったりなど、好きなことを思いっきり楽しんだ大学生活でした。

結果・現象から過去を推測
大学で培った考察力が役立つ仕事

現在は、全国の気象レーダーで観測したデータを収集・配信するシステムの開発に携わっています。大学で学んだ、岩石の結晶(結果・現象)から過去の環境(原因)を推測する考え方などが役に立っています。災害時に自分が関係したシステムが活用されていたり、天気予報で使われるのを見ると、社会に役立っていると実感し、やりがいを感じます。

医学部 住民と距離の近い保健師を
目指して奮闘中



黒木 未紗
Misa KUROGI

日向市役所健康福祉部
いきいき健康課(宮崎)

医学部保健学科看護学専攻
平成25年度卒

平成3年生まれ、宮崎県延岡市出身。宮崎県立延岡高等学校卒業。看護師、保健師、高等学校教諭(看護)2種免許取得。

熊大のココがイイ!
学生と先生方の距離が近いこと。

被災地・熊本へ
震災時の保健師の活躍に、あらためてその重要性を感じました。第二の故郷熊本のためにも、私も出来る限り力を尽くします。

すばらしい職業だと感じた
看護師、保健師の仕事

高校生の頃は漠然と、看護師か保健師のどちらかの職に就きたいと考えていました。高校1年生でさまざまな職業について調べた時も、すばらしい職業だと思ったのが看護師・保健師。担任の先生に相談した時、高齢化時代でさらに需要が高まる職業だとアドバイスをいただいて、看護系に進もうと決めました。

同じ夢を持つ友だちの存在が支え
大変だった毎日今も今も

看護は授業が多く、長期にわたる実習、国試と就職試験の勉強と、正直大変でした。その大変ささえも楽しくて充実していたと思えるのは、同じ夢を持つ皆さんの友だちのおかげです。相談したり、教えあったり、時には愚痴を言いながら乗り越えたのは、今の自分の糧になっています。また合間を使ってやっていたアルバイトも、社会に出る前の経験として良かったと思っています。

自分の健康に関心を持ち
「予防」する行動につなげてもらいたい

現在は特定健診・特定保健指導やがん検診を中心に、住民の疾病予防に努めています。家庭訪問や健康教育等を通して、一人でも多くの住民に自分の健康に関心を持ってもらい、「予防」するための行動につなげてもらえるよう、日々奮闘中です。これからも住民と距離の近い保健師を目指し続けます。

薬学部 最先端の科学を「薬」という
形にして患者さんへ!



本田 宗吉
Sokichi HONDA

アステラス製薬株式会社熊本
トランスレーショナル
サイエンス研究所(茨城)
薬学部薬科学科
平成17年度卒
大学院薬学教育部
博士前期課程生命薬科学専攻
平成19年度修了/同
大学院薬学教育部
博士後期課程生命薬科学専攻
平成22年度修了

昭和58年生まれ、熊本県宇土市出身。熊本県立宇土高等学校卒業。常に最高の仲間たちと恵まれて育つ。趣味は音楽、スノーボード、ドライブ。

熊大のココがイイ!
人!! 最高の仲間たちと出会えます。

被災地・熊本へ
熊本が大好き。離れて暮らしても心はいつも熊本。元気な熊本を世の中にとんとんアピールしていきたい。僕もがんばるけん。

祖父との会話で感じた
「薬」で人を幸せに

小学生の時に父親を亡くしたこともあり、人々の健康に貢献する仕事に就きたいと漠然と考えていました。ある時、祖父との会話の中で、人間の健康にとっての「クスリ」というものの価値・存在の大きさに気づかされ、創業をしたい、自分がつくったクスリでみんなを幸せにしたいという思いを強く持つようになりました。

世界水準の研究に触れた
3度の海外学会

先生、先輩、後輩、友人たちと多くの人に恵まれました。研究室配属後は研究漬けの日々。海外の学会で3度も発表する機会を与えて頂き、世界水準の研究を肌で感じる事ができました。うまくいかないことも多かったですが、それを乗り越えることができたのも、支えてくれた仲間たちのおかげです。

1日でも早く最先端の科学をクスリとして
患者さんに届けたい

夢だった製薬会社に就職し、現在は臨床と非臨床の橋渡し研究を担当しています。主にイメージングや脳波などの技術を駆使して、ヒトでの薬効を予測する研究です。臨床試験の成功確率を高めるために必須な分野で、1日でも早く最先端の科学をクスリとして患者さんに届けるために、日々国内外のメンバーと議論しながら研究を進めています。

INFO

第11回ホームカミングデーを開催します

卒業生と学生、教職員との交流を図ることを目的に開催します。大学の近況報告、学生によるアトラクション、キャンパスツアー等多彩な行事と交流の場を用意しています。

【開催日時】
平成28年11月12日(土) 13:30~17:00

【開催場所】
工学部百周年記念館

【対象】
本学卒業生

【申込方法】
メール、FAXにて下記問い合わせ先に直接申し込み

【参加費】
2,000円(歓迎パーティー参加の場合)

【問い合わせ先】

熊本大学運営基盤管理部総務課
TEL: 096-342-3116 FAX: 096-342-3110
E-Mail: kuma-hcd@jimu.kumamoto-u.ac.jp
【URL】

http://www.kumamoto-u.ac.jp/sotsugyousei/home_coming/dai11kai/index



INFO

第32回熊本大学附属図書館貴重資料展
「熊本藩法と犯罪史－裁く人と裁かれる人たち」
公開講演会/第11回永青文庫セミナー
「熊本藩刑法の特徴と犯罪の実態－天領との比較を通じて」を開催します

今回の貴重資料展では、熊本藩の法律と犯罪、リアルなお裁きの世界について文学部安高准教授の監修によりご紹介します。

【開催日時】
貴重資料展:

平成28年11月4日(金)～6日(日)
10:00～17:00(3日間)

公開講演会/第11回永青文庫セミナー:
平成28年11月5日(土)

14:00～15:30

【開催場所】
熊本大学附属図書館1階 ラーニング commons

【対象】
学生・教職員・一般の方
(どなたでも参加いただけます。)

【申込方法】
事前申し込みは不要です

【参加費】
無料

【問い合わせ先】
熊本大学附属図書館

TEL: 096-342-2212

【URL】
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/2094



INFO

「平成28年熊本地震」に関する資料ご提供のお願い

附属図書館では、平成28年4月14日(木)以降に発生しました一連の「平成28年熊本地震」に関連した各種資料を収集、保存し、公開することで、資料をご提供いただいた方と、将来それを必要とする方々との橋渡しができればと考えております。

つきましては、この趣旨にご賛同いただける方は、熊本大学附属図書館に資料をご提供くださいますようお願い申し上げます。

【収集する資料】
平成28年熊本地震に関する各種団体・個人による
・図書、雑誌等の冊子
・論文
・講演会、学会、シンポジウム等の資料
・調査報告書、研究報告書
・ポスター、チラシ

・その他、平成28年熊本地震に関する資料
※熊本大学に関するもの、関連しないものを問わず、広く多くの資料を対象とします。
※資料の形態は、冊子、紙面等の印刷物、その電子データの CD-ROMやメール送信可能な電磁的記録等とします。

※ご提供いただいた資料は館内で保存・公開するほか、許可をいただけるものにつきましては、電子化してインターネット上で公開することを予定しています。

※熊本地震に関する資料や所在に関する情報提供も受け付けています。
【寄贈の受付】
ご寄贈の際は、「送付票」(URL参照)にご記入の上、資料とあわせてご持参いただくか、下記までご送付ください。

【送付先】
〒860-8555 熊本中央区黒髪2-40-1
熊本大学附属図書館「熊本地震資料担当」
※ご持参いただく場合は、図書館開館時にお願いたします。
※ご送付いただく場合の送料は、寄贈者様のご負担をお願いいたします。
●電子メールで送付可能なもの場合
E-Mail: shinsai@lib.kumamoto-u.ac.jp
【問い合わせ先】
〒860-8555 熊本中央区黒髪2-40-1
熊本大学附属図書館「熊本地震資料担当」
TEL: 096-342-2224 FAX: 096-342-2210
E-Mail: shinsai@lib.kumamoto-u.ac.jp
【URL】
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/2075

REPORT

第3回熊本大学九州連合同窓会を開催しました

第3回熊本大学九州連合同窓会(安田宏正会長)が、平成28年7月16日(土)ホテル日航熊本において、九州地区在住の同窓生など約100名の参加を得て開催されました。

当日は、前半に総会・講演会が、後半に交流会が行われ、総会では、安田宏正会長、二塚信熊本大学同窓会連合会会長による挨拶の後、来賓紹介、平成27年度の卒業生表彰受賞者紹介、役員等紹介が行われました。

講演会では、基調講演として原田学長から「平成28年(2016年)熊本地震 熊本大学の震災復興」と題した、熊本大学の被災状況及び

復興に向けた取り組みについての報告が行われました。また、小野友道熊本大学名誉教授、熊本機能病院顧問から「漱石来熊120年—「医者の目で『吾輩は猫である』を読んでみる」と題し、夏目漱石来熊120周年、生誕150周年にちなんだ特別講演が行われました。

交流会では、古島幹雄熊本大学理事、本島昭男関西連合同窓会会長から祝辞が述べられた後、溝田武人熊本大学九州連合同窓会実行委員長の発声で乾杯が行われ、参加者は賑やかに世代や学部を超えた交流を楽しみました。会の中では、現役学生である西本徹応援団

団長から「巻頭言」と「五高寮歌」が披露されました。

閉会に際しては、土山末人熊本大学九州連合同窓会副会長からの挨拶で謝意が述べられ、盛況のうちに会は終了となりました。



挨拶をする安田会長

INFO

「夢科学探検2016 理学部探検、工学部探検、もの・クリChallenge」を開催します

ドキドキ・ワクワクするような実験を通して科学の面白さ、不思議さに触れてもらうイベントで、本年度は約100件の演示実験を予定しています。参加者は例年2,000名を超える本イベントは今回で24回目を迎え、本学南地区では最大の一般市民向けのイベントとなっています。

【開催日時】
平成28年11月5日(土) 10:00~16:00

【開催場所】
熊本大学黒髪キャンパス南地区
(工学部・理学部・大学院自然科学研究科)

【対象】
小学生から一般の方

【申込方法】
事前申込は不要です。当日お越しただいで各ブースを回っていただく形になっております。

【参加費】 無料
【問い合わせ先】
熊本中央区黒髪2丁目39番1号
熊本大学工学部教務担当
TEL: 096-342-3522
E-Mail: yume@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp
【URL】
http://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/index.php



INFO

「埋蔵文化財調査センター速報展示2016」を開催します

大学構内遺跡の発掘成果を公表する速報展示を開催します。明治・大正期の赤煉瓦建物に関する遺物や休館中の五高記念館の展示物も見ることができます。

【開催日時】
平成28年11月1日~平成29年4月28日
平成28年11月10日と平成28年12月6日に展示説明会開催(AM10:00~11:00)

【開催場所】
埋蔵文化財調査センター
【参加対象者】
学生・教職員・一般の方
【申込方法】
事前申し込みは不要です

【参加費】
無料
【問い合わせ先】
熊本大学埋蔵文化財調査センター
TEL: 096-342-3832
【URL】
http://www.kumamoto-u.ac.jp/organizations/maibun



INFO

第3回熊本地震における支援事業

「障がいを持つお子様のごきょうだいと
お母さんのためのスペシャルプログラム」を開催します

非災害時においても、障がい児のお母さんは、障がい児の世話にかかりきりになり、そのきょうだいの対応などに不安をもっている場合が多いといわれています。きょうだいもお母さんはいへんなので、自分の気持ちを出しきれないままストレスをため込んでいる場合もあります。

地震後のよりストレスフルな環境の中で、この状況は増強されるのではないかと考えられます。そこで、きょうだいとお母さん共にリフレッシュを図ることなどを目的としたイベントです。

【開催日時・場所】
平成28年10月29日(土)
上天草わくわく水中水族館シードーナツ
集合場所は、熊本大学医学部保健学科

【対象】
障がいを持つお子様のごきょうだいとお母さん20組程

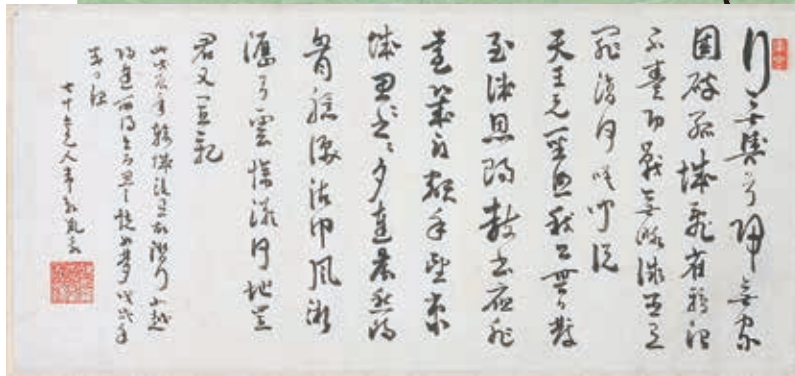
【申込方法】
FAXまたはEメールに、きょうだいとお母さんの氏名・年齢・電話番号・住所・Eメールアドレスを記入して申込先に応募してください。

【参加費】 無料
【問い合わせ先/申込先】
熊本大学大学院生命科学研究部看護学講座
小児看護学領域 生田まちよ
〒862-0976 熊本中央区九品寺4-24-1
TEL/FAX: 096-373-5565
E-Mail: shounizaitakuk@yahoo.co.jp

【URL】
http://imadekirukoto.jp/activity/iorg0181/
本事業は、日本財団の助成を受けて行っています。



知の至宝



扁額「北越潜行之詩」(五高記念館所蔵)

「行くに輿(こし)無く帰るに家無し」と始まるこの漢詩は、会津戦争後の会津藩の苦境を詠んだ「会津三絶」のひとつと言われる。

作者秋月胤永(かずひさ)は文政7(1824)年会津に生まれた漢学者で、江戸の昌平坂学問所で学んだ。藩命により西国諸藩を見聞し、藩主松平容保(かたもり)が京都守護に任命されると共に上洛、その右腕として活躍した。

会津戦争後、越後(新潟県)にいた新政府要人のもとを密かに訪れ、藩士たちの善処を願い、優秀な若者の教育を託した。「北越潜行之詩」はこの時に詠んだものであり、託された若者のひとりが後に日本最初の物理学博士となり、東京、京都、九州各帝大総長を努めた山川健次郎である。

秋月は、その後赦免されて新政府に出仕し、政府の要職や第一高等学校教諭を務めた。明治23(1890)年9月に第五高等学校に赴任し、明治28(1895)年8月まで漢学、倫理の教授として勤務したが、教職員、生徒双方から尊敬と信頼を集め、五高の「剛毅木訥」の校風は秋月の人格、学識を手本としたものと言われる。

文 藤本 秀子(五高記念館)

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。